

田子浦 新浜の備前さん

昭和六十年八月五日号

田子浦の新浜地区に「備前さん」と呼ばれるお堂があります。ここには昔、備前の国から幕府の御用米を積んで来て転ぶくした船の乗組員を祭った石塔が納められています。

今回は、この「備前さん」にまつわる話を、新浜の大竹徳一さんに語ってもらいました。

夢枕に現れた石塔

昔、備前の国（現在の岡山県の一部）から、幕府の御用米を積んで来た船が、航路を間違



備前さん

えて駿河湾に入ってしまった。そこで仕方なく田子浦港へ入ろうとしたが、富士川へ入ってしまった。富士川は天下の急流、船はたちまちひっくり返り、船はもちろん二十人近い乗組員はほとんど亡くなってしまった。死体は、大部分が新浜にあがり、哀れに思った新浜の人たちは、石塔を建て、祭つてやつたそうなのところが、長い年月の間、たびたびの天災によつて石塔は埋もれてしまい、人々にもすっかり忘れられてしまった。

それが、今から六十余年前、新浜の大竹よねさんという信心深い老婆の夢枕に「石塔を掘り出して祭つてくれ」とお告げがあつた。すべに告げられた場所を掘ってみると、本当に石塔が出てきた。村の人たちは、さつそくお堂を建て、今でも毎月四日をもつて供養し

ている。

「備前さん」は、願い事がかなえられると定評があり、建立当時は参拜者が絶えなかつたのを覚えている。

